

分科会-分科会	発表順	賞	都道府県	施設名	主発表者名	共同研究者 (認定状記載者)	発表テーマ	講評
第1-①	7	優秀賞	石川県	特別養護老人ホーム福寿園	坂本 真		介護職による栄養管理 3年間のデータ分析による評価と受入れ被災者の変化	低栄養改善の模範的取り組み。提供栄養量と摂取栄養量の差などのデータを精緻にモニタリングし、実際の改善成果も数字で表示。加えて定員オーバーで受け入れた被災利用者の減量にも取り組み、日頃の介護力の重要性も示した。減量による医療費削減効果を金額で示すなど、適切な介護が今後の社会保障費の抑制に効果があることも明確にした。
第1-①	5	奨励賞1	香川県	特別養護老人ホーム大寿苑	関 千佳	横内 美枝	パワー-終結！ひとりじゃない！ 専門性の理解と尊重	脳出血後遺症の方の経口移行を多職種で進めた模範的な事例。具体的かつ明確な目標の設定、各専門職の主張の優先順位の整理、想定外の体調不良への対応など、どの施設も経験する事例を成功へ導くステップをわかりやすく示した。
第1-①	2	奨励賞2	北海道	特別養護老人ホームぬさまい	赤松 真悟	柴田 光	ぬさまいオープン5年目を迎えて 「ICT・介護ロボットへの再挑戦」	科学的介護を実践するための環境づくりの取り組み。ICT機器を導入した後に起こりがちな、機器をうまく活用できていないという事態をチームで打破し、その成果の一部として夜間体位変換の回数減で睡眠が改善したデータも数値化し示した。
第1-②	8	優秀賞	大阪府	総合福祉施設 どうみょうじ高殿苑	大谷 まさ美		歯科衛生士が介護施設で求められる人材となるために	評価票をうまく活用し数値化・グラフ化されることで発表内容がよく伝わりました。資料スライドの内容や流れもよく、随所に工夫が見られました。この取り組みを業務計画として明確化することで、継続性へつながっているのだと感じました。プレゼンも素晴らしいかったです。
第1-②	2	奨励賞1	北海道	特別養護老人ホーム宏生苑	平山 香織		くらしの中のレクリエーション ～共に参加し、共に楽しむ～	レクリエーション本来の目的や意義をうまく活用しながら利用者、職員、家族、地域等とのコミュニケーションツールとして自然な活用がなされている姿が想像できます。発表者のいきいきとした笑顔も大きな評価点であり、テーマにピッタリ合致していました。
第1-②	3	奨励賞2	長崎県	特別養護老人ホームふるさと	岩永 和浩		週2回の口腔ケアで肺炎予防 口腔ケアで救える命がある	OHAT-Jを活用して、多職種連携や職員教育を進めたことは大いに評価できます。結果として数値化もスムーズに行われ、スライドもうまく活用され発表も落ち着いてできました。
2	4	優秀賞	茨城県	特別養護老人ホームもくせい	田所 真由子	齋藤 智子	稼働率アップの実践と成果 全社戦略型プランニングと組織変革	・見守りセンサーの活用をケア向上につなげているところが秀逸 ・施設経営における収支について考慮されている内容である ・課題を3つに絞り、解決プロセス、活用内容、改善の結果、課題がわかりやすくまとめられていた
2	6	奨励賞1	広島県	特別養護老人ホーム 大崎美浜荘	高原 由実		離島の未来を担う学校との取り組み ～大崎上島学とのつながり～	離島というマイナス要因の中、教育、子どもたちへの働きかけにつなげているところがすばらしい。社会課題である過疎化対策についても貢献されている。
2	5	奨励賞2	香川県	特別養護老人ホームあかね	山下 航平	吉岡 哲哉	ICTを活用した3つの可視化による標準化と効率化を目指して ～外国人共生協働システムの構築～	メーカーとの共同開発により業界への貢献度が大きい。 職員・外国人介護人材の方がともに働きやすい介護職場づくりに向けてICTツール等の活用していること、どの施設においても課題になる。
3	2	優秀賞	北海道	特別養護老人ホーム 静苑ホーム	橋本 抄苗	捻金 千晴	HOLな職場作りに向けて 女性活躍から見える子育て職員の幸せな働き方	HOL課や介護連携部署の創設により、子育て支援等女性スタッフの活躍の場が広がっている。また、心理的安全性を意識した職場環境につながっている。
3	6	奨励賞1	鳥取県	特別養護老人ホーム 高草あすなろ	小幡 雅宏	三ツ中 麻美	ノーマルな取り組み 腰痛予防対策の仕組みづくり	個別事例に基づいた検証を行いしっかりと分析されていた。また、腰痛予防対策をPDCAサイクルで実践されていた。
3	7	奨励賞2	名古屋	特別養護老人ホーム極楽苑	岩田 佳奈子		女性管理職の活躍が組織を強くする ～活躍の鍵はDX(デジタル変革)～	施設長自ら、女性管理職のお手本となり活躍されている。職員との対話を大切に、窓口の設置など工夫されていた。介護人材採用にターゲットを絞って取り組んでいた。
4	4	優秀賞	茨城県	地域密着型通所介護 特養しらとりデイサービス	小林 優希		「幸せホルモン大作戦」～タッチケアの導入とその効果～ 認知症高齢者も安心して楽しめるデイサービスとは	BPSD出現とその対応は多くの介護事業所に共通する課題。出現後、その対応に追われがちな中、法人内で培われたタッチケア技術の導入により、BPSD出現の低減ははかり、スタッフも利用者の良い変化が見られることで、スタッフのやりがいと自己肯定感が高まり、生き生きと変化していく様子が見られた。また、実践の効果検証を大学機関研究者との協同で取り組み、その内容を数値化・可視化し、その改善効果がわかりやすく明示した。さらに、タッチケア導入前後で利用者数が1.4倍に増加したことは、「利用者よし、職員よし、経営よし」の三方よしに合致する優れた実践であった。
4	3	奨励賞1	福岡県	認知症対応型通所介護 デイサービスセンター菜々	山下 亜樹子	萩原 圭子	特色の再構築と実践 私たちが誰かを笑顔にする	自己完結型の運営を自覚し、地域の力を借り、地域を巻き込んだ、利用者の自己保有力を最大限に引き出すためのケアとアクティビティの拡充の改善活動を実践。活動の過程では、ビジョン・コンセプトの明確化、方向性の共有、職員間の対話の質の拡充、日々生じる不安課題への対応、互いを信じ合う関係性の向上に努めた結果、利用者のADL改善と自己効力感の向上、地域とのつながりの広がり、居宅事業所から紹介増加、稼働率が70%から93%へと向上した。
4	1	奨励賞2	仙台市	せんだんの里デイサービス	曹野 大崎	小嶋 みく	笑顔が消えたデイサービス ～変化への挑戦～	事業所の稼働率低下をコロナ流行による外的要因にすることなく、自分たちにベクトルを向けて、目標と6つの活動の明確化、居宅介護支援事業所からのニーズ把握と事業所評価、学生アルバイトの活用、経営目録で全員参加による改善活動により、利用者満足・職員満足が増加、過去最高の事業収益を実現した。
5	7	優秀賞	愛知県	軽費老人ホーム 一期一会社	廣江 直樹	小林 江里	地域とつながる アウトリーチ活動	施設の資源が何なのか見つけ直し(検証)、チャレンジしていく姿が良かった。アウトリーチ活動(地域へ出ていく、巻き込む)がとてもよく分かる発表でした。
5	1	奨励賞1	宮城県	軽費老人ホーム ケアハウス大谷春園苑	小野寺 紀瑛		地域共生社会を目指して 全ての世代が安心して過ごせるように	地域の拠点へのアプローチが分かり易く良かった。地域との幅広い関係性が感じられた。利用者のやりがい、生きがいを感じられた。
5	6	奨励賞2	広島県	ケアハウス こようの里 親和園	住田 依美紀	中村 智春	「食事わがままを叶えよう」 家庭の温かさを施設でも	集団生活の中での制限(食事)に対するチャレンジ(精神的な健康へつなげる)が良かった。また利用者だけでなく職員のイキキとした姿が見える様な発表でした。施設における食事に対し再認識する発表でした。
6	4	優秀賞	鳥取県	養護老人ホーム 鳥取市なごみ苑	藤井 まさみ	池本 美鈴	自律して地域社会へ参加する 支援を受ける側から、地域に出向き支援を担う側へ	社会復帰の視点を幅広くとらえるとともに施設の目標に設定し、アセスメントツールを使用し科学的に分析し、入居者の自立につなげている。また、そのプロセスについても計画的にPDCAを見直し実施されている。
6	3	奨励賞1	栃木県	養護老人ホーム 悠生園	内海 雅貴	小澤 聡子 二渡 裕美	稼働率100%を達成！！ 職員の意識改革などの取り組み事例	入所率向上のため依頼されたら断らず受け入れるということだけでなく、複雑な課題を抱えた入所者に対応するべく職員の専門性も研修会等に参加し深化向上させ、施設全体のレベルアップを行い対応している。
6	5	奨励賞2	愛知県	半田養護老人ホームLink	森田 啓紀		施設の「ふつう」を見直す 入居者対応の変化と稼働率向上への道のり	「昔からおこなっているから」に対して、入居者対応・業務改善・情報発信と区分の行い施設の普通を見直し、養護老人ホーム全体のレベルアップにつなげた。